
議 事 要 旨

議 題：第10回 エキサイトよこはま22 懇談会

開催日時：令和元年5月27日（月）17：00～19：00

場 所：横浜アイランドタワー 10階 大会議室

参加者：委員名簿参照

1. 開会

- 事務局より挨拶
- 委員及びオブザーバーの紹介

2. 横浜市あいさつ

○平原委員（横浜市 副市長）

横浜駅周辺のまちづくりに当たっては、これだけ多くの方のご理解・ご支援を得ながら進めている。改めて深く御礼を申し上げたい。

横浜駅周辺の状況として、昨年11月にリーディングプロジェクトである駅ビルの正式名称が「JR横浜タワー」に決定した。西口では、地下街中央通路接続事業の順次展開、駅前広場の整備などが進められている。また、東口では、駅前広場にエスカレーターが新たに設置されるなど、オリンピック・パラリンピックの開催を前に、一步ずつではあるが着々と横浜の玄関口としてのまちづくりが進められている。

今ご紹介した内容のほか、エキサイトよこはま22に関するこれまでの経緯や今後の取組等ご説明させていただく。忌憚のない意見をいただきつつ、横浜駅周辺のまちづくりにつなげていければと思っているため協力をお願いしたい。

3. 議題 資料説明

■ 主な取組と今後の検討事項

主な取組と今後の検討事項

(1) 横浜駅周辺を取り巻く状況【資料1】（事務局）

- ・横浜市都心臨海部再生マスタープラン
- ・連節バスを活用した「高度化バスシステム」等
- ・横浜駅周辺の基盤整備（歩行者ネットワーク）
- ・地区を取り巻く環境変化（みなとみらい21地区中央地区）

(2) 西口周辺【資料1】（事務局）

- ・駅前広場（中央西口、きた西口）
- ・西口地下街中央通路接続事業（馬の背解消）
- ・JR横浜タワー等の整備
- ・横浜駅きた西口鶴屋地区市街地再開発事業
- ・JR横浜タワーとJR横浜鶴屋町ビルを結ぶ歩行者通路

(3) 東口周辺【資料1】(事務局)

- ・東口基盤検討の進捗状況
- ・横浜駅東口地区(ステーションオアシス)
- ・東口駅前広場エスカレーター
- ・横浜駅東口バスターミナルのリニューアル

(4) 基盤整備【資料1】【資料2】(事務局、環境創造局下水道事業マネジメント課)

治水対策

- ・治水対策計画
- ・外水対策(河川改修・橋梁架け替え)
- ・内水対策(横浜市特定地域都市浸水被害対策事業)

駐車場対策

- ・駐車場整備ルールの改正

(5) 防災・エリアマネジメント【資料1】

(事務局、エキサイトよこはまエリアマネジメント協議会)

- ・防災の取組
- ・エリアマネジメントの推進
- ・公共空間の活用によるまちの賑わいづくり

(6) その他【資料1】(事務局)

- ・横浜市広告付案内サイン・公衆無線LAN整備事業
- ・電気バスの運行
- ・可動式ホーム柵(ホームドア)の整備

(7) 今後の進め方【資料1】(事務局)

4. 意見交換

○小谷委員(横浜駅東口振興協議会 会長)

まず、東口にエスカレーターを設置していただいたことに感謝している。

みなとみらい21地区や桜木町辺りの開発が横浜駅東口にも及んできている。今後來街者の増加も想定される中で、東口として対応していく必要があると考えている。

横浜駅は西口の開発が先行していたが、地域間競争に打ち勝つためにも今後は東西が連携して事業等進めていきたい。

東口は現在、連節バスや京浜急行による2階建てバスの計画が進められている。今後も東口を振興していくため、スカイビルや崎陽軒、そごう等と協議していきたい。

○鳥居委員（横浜駅西口振興協議会 会長）

馬の背工事が半分ほど完了している。中央通路とつながることで通行量の増加が想定されるため、完成が待ち遠しい。来年には、JR 横浜タワーの開業も予定しており、今後の発展に期待している。

西口振興協議会はエリアマネジメントに力を入れており、平成 29 年には一般社団法人横浜西口エリアマネジメント（YAM）を設立した。公共空間や道路・河川等を利用して事業を展開し、収益を得ることで、地域に還元していくような仕組みができた。

西口は民間の開発が先行したため、公共空間、特に歩行者空間が貧弱で、バリアフリーが不十分であるため、高齢化社会への対応に不安が残る。

西口周辺のビルは老朽化が進んでおり、再開発の時期が迫っていると考えられる。都市防災の課題でもあるため、行政の力を借りながら対応していきたい。

オリンピック・パラリンピックの時期には日本に 4000 万人の方を誘致するとしている。この来訪者を横浜駅周辺にお呼びするには、既存施設の展開はもとより新たな観点からの開発をする必要があると考えている。駅前の再開発等を利用して市全体の魅力を高め、世界に情報発信していきたい。

地域間競争が激化している。横浜駅全体のマスタープランを改定し、開発をしていきたいところだが、制度面の優遇措置の限界や資金の問題が残る。官民連携して横浜をよくしていきたい。

○野並委員（横浜駅東口振興協議会 副会長）

東口の開発は出遅れていたが、みなとみらい含め、少しずつ進んできた。みなとみらいの玄関口としての役割が大きくなった一方、東口とみなとみらいをつなぐ道路については、自動車・歩行者の動線を強化する必要があるように感じる。

過去の懇談会で浸水対策において、馬の背が防波堤の役割を果たしているという発言があった。今回その防波堤がなくなるのでより一層浸水・治水対策に力を入れていくべきである。

○事務局（池本理事（横浜市都市整備局 横浜駅周辺等担当理事））

東口やみなとみらい周辺の自動車・歩行者動線については課題として考えている。オアシス地区開発の計画を中心として東口とみなとみらいをつなぐ動線の拡充を進めていきたい。

浸水・治水対策について、横浜駅は帷子川の河口にあり海も近く、過去にも浸水の被害があった。東西の被害を小さくするため、治水対策については県土整備局、下水の整備については環境創造局で進めていく。また、JR 横浜タワーに雨水貯留施設を整備することで治水対策のレベルをあげていく。

○倉知委員（鶴屋地区街づくり協議会 理事長）

きた西口駅前広場の屋根の中心部分は空いているのか。

○事務局（池本理事（横浜市都市整備局 横浜駅周辺等担当理事））

歩行者動線上は屋根をかける計画である。

○倉知委員（鶴屋地区街づくり協議会 理事長）

現在きた西口駅前広場が喫煙スペースとなっている。工事中は移転するということだが、どこに移転するのか、また工事終了後は今の位置に戻す予定があるのか。

喫煙所がなくなったあと、歩きたばこが増えることが見込まれるがその対策は考えているのか。

○事務局（池本理事（横浜市都市整備局 横浜駅周辺等担当理事））

現在のきた西口駅前広場の喫煙所は河川区域内にあり、暫定利用である。鶴屋町方面で移設先を調整している。

○倉知委員（鶴屋地区街づくり協議会 理事長）

鶴屋橋は光というテーマで橋ができていくということだが、このテーマについて今後どう考えているか。

○事務局（池本理事（横浜市都市整備局 横浜駅周辺等担当理事））

鶴屋橋架け替えの際も光を大事にした。きた西口駅前広場についても設計の途中であるが、夜も美しい空間を保つため、照明を工夫したいと考えている。

○倉知委員（鶴屋地区街づくり協議会 理事長）

鶴屋橋の隅切り、蓋掛けを要望する。鶴屋橋からきた西口に行く曲がり角が特に狭いので解消してほしい。

○事務局（池本理事（横浜市都市整備局 横浜駅周辺等担当理事））

角にあるガスガバナーは移設を検討している。川沿いについては神奈川県と調整中であるが、フェンスを河川に寄せて広場を広くし、休めるようなスペースも作り、広く使っていきたい。今後も引き続き検討を進める。

○倉知委員（鶴屋地区街づくり協議会 理事長）

要望をするだけでなく、地域で清掃活動を実施し、鶴屋橋周辺地区がきれいに保てるように努力していきたい。

○澤委員（神奈川区青木第二自治会町内会連合会 会長）

高速道路下の県政センターの手前辺りに喫煙所ができると聞いている。横浜駅から離れているうえに狭いため、そこを利用してくれるか心配だが、仮設喫煙所が使えないならやむを得ないだろう。

清掃について、平成31年3月から鶴屋町と台町で月一回のペースで始めた。これからも継続してやっていきたい。

○千原委員（横浜駅西口振興協議会 副会長）

中央西口駅前広場、馬の背解消事業、JR 横浜タワーの整備等、長年のプロジェクトの竣工が近づいてきている。「人に優しい駅前広場」をコンセプトとしている中央西口駅前広場については、賑わい空間・憩いの場となる滞留空間が生まれることを期待している。

平成31年3月に一般社団法人横浜西口エリアマネジメントとはまマネ協議会共同で社会実験を実施し、肯定的な意見を多数いただいた。同時に行ったアンケート調査で、滞留スペースの増設、広場の利活用が市民から望まれていることがわかった。中央西口駅前広場は西口の顔なのでエリアブランディングという観点からも駅前広場の環境を良好に保ちながら適切に利活用していきたい。

そのためにはハードの整備とあわせて管理のスキームの策定、活用に関するコンセプト・デザイン・ルール策定、また、実証実験の実施が必要である。横浜市、JR、西口各事業者、エリアマネジメント団体がさらに連携していきたい。

公共空間を適切に維持管理しながら利活用するには原資が必要になる。みなみ西口駅前広場については道路協力団体制度の適用により収益を伴う活動が可能になった。中央西口駅前広場についても収益源として、広告・物販・イベント使用料等が得られるよう法制度の整備や規制緩和をお願いしたい。

インバウンド対応として、オール横浜で取り組む必要がある。国内外からの来街者に楽しんでもらうため、商業施設等で多言語接客ツールの導入を始めた。市には高度化バスシステム等、効果的な交通インフラの整備や横浜を回遊できる運行ルート確保をお願いしたい。また、バスの運行について、大黒ふ頭や西口もバスルートに含めてほしい。

○事務局（池本理事（横浜市都市整備局 横浜駅周辺等担当理事））

広場の整備だけでなく、エリアマネジメント等についても各関係者と連携し進めていきたい。

○平原委員（横浜市 副市長）

横浜市もインバウンド対応に取り組んでいくつもりだ。横浜市は近年客船が増えており、今後は7隻同時着岸の準備をしている。多くのお客様に来ていただけるよう取り組んでいきたい。

○中山委員（幸栄地区 横浜駅西口地区 市街地再開発準備組合 理事長）

まちづくりを進めていくに当たって、一番大切なのはベビーカー、車いすの方でも利用できるような「安心・安全」である。

西口駅前から西区地区センターの道は1/6勾配の歩道であり、また、中央通路から東口のバスターミナルまでの道等、車いすで利用のしにくい箇所もある。

また、横浜駅は6大都市の中でもホームにエレベーターが設置されたのが遅く、バリアフリー意識が低かったと感じる。

横浜駅で最も海拔が低い場所はT P 20センチ、岡野町交差点はT P 30センチ、北幸はT P 60センチである。横浜市は集中豪雨73mmを想定しているが、それ以上の雨が降っているのが現状である。帷子川、新田間川の河口部の整備が進み流量・流速が増えれば豪雨の際もある程度対応できるだろうが、いつ実現するかも不明である。開発に伴う雨水貯留施設の整備だけでは到底不十分なので神奈川県にはしっかりと河川整備に取り組んでもらいたい。

都市の集中化が進んだ弊害として、道路の混雑がある。土日には西口の地下駐車場に入る車両により、台町交差点や青木橋交差点付近で渋滞が発生している。一般車のみならず市バスも同様に渋滞に巻き込まれている状況のため、車線の変更等、抜本的な改善をしてほしい。

みなとみらいや東口には市が管理する公共駐車場があるが、西口にはその計画はないため、代わりに民間駐車場の利用状況を把握できるような電光掲示板の設置を求めたい。

高速遠距離バスのターミナルが貧弱なので改良を考えていただきたい。

○事務局（池本理事（横浜市都市整備局 横浜駅周辺等担当理事））

バリアフリーや道路勾配については、建物と道路を一緒に直していきたい。治水対策についても同様で、開発の機会と同時に地盤の嵩上げもしていけると良い。

渋滞は実態としてあるが、発券所の並びや、駐車場の利用の偏りが原因となっているケースもあると把握しており、案内システム等も併せて検討し、真摯に取り組んでいくつもりだ。

○平原委員（横浜市 副市長）

ベビーカーの話があった。急速な開発の中で忘れてきてしまったことが今課題となっているように感じる。それらを解決するためにもエキサイトよこはま22を策定しみんなで取り組んでいこうとしている。これからもさらに良い方向に引っ張っていきたい。

帷子川の河口部の拡幅については貨物線が存在していて難しい。水害の根本の解決策なので取り組んでいきたい。

道路、駐車場については、エキサイトよこはま22策定時の想定を超え混雑している。例えば交差点の改良や車線の変更等含め、今後も検討していく必要がある。

○東田氏（大島委員代理）（神奈川県県土整備局）

帷子川の河口付近の拡幅について、JRの貨物線の橋梁を架け替えて工事を進める必要があり、JRと協議を進めているところである。電車を動かしながら工事をすることで時間、費用がかかる見込みであり、早急に進めることが難しいが、県としても重要性は理解しており、今後も前向きに進めていく。

帷子川の河床掘削については、川の断面を有効に活用するために溜まっている土砂を掘る必要がある。そのような中で平成28年度より計画的に河床を掘削しており、金港橋からJRの橋梁の辺りがやりにくいところであるが、今年度着手する予定だ。引き続き進めていくので、ご理解いただきたい。

○中山委員（幸栄地区 横浜駅西口地区 市街地再開発準備組合 理事長）

鉄道橋梁部分と新田間川・幸川について、河床掘削を進めてほしい。

○中山委員（横浜駅きた西口鶴屋地区市街地再開発組合 理事長）

2月7日に横浜市に権利変換計画の許可申請をしており、まもなく認可がおりる予定である。市や関係者の方々に感謝している。

スケジュールが遅れ、当初予定の2倍ほど時間がかかっているように思うが、間もなく解体が始まり、着工となる。再開発組合として横浜駅の発展のために協力できればと思っている。

西口中央広場はバスとタクシーの停車スペースが狭い。すぐ近くを歩行者が狭い通路を歩いていてアンバランスを感じる。屋根をかけるだけでなく、広場の拡大を要望する。自動車を一階部、歩行者を二階部に分ければ、大きな広場を作ることができるのではないかと考えている。

○事務局（池本理事（横浜市都市整備局 横浜駅周辺等担当理事））

鶴屋の再開発についても、精一杯取り組んでいくつもりだ。また、中央西口駅前広場については、タクシーレーンを減少し、歩行者空間を拡大するとともに岡田屋前の道路も歩行者専用とした。広場の歩行者空間は設けていきたいと考えている。

○酒井コーディネーター（独立行政法人都市再生機構）

治水対策等の基盤整備やエリアマネジメント活動等様々な面からまちづくりが進められていることを感じた。

昨今のまちづくりとして、例えば公共施設スペースを作る際、利用者がどのような使い方をするか、どのように地域の防災やコミュニティに寄与するかというソフト面も考えていく必要がある、ハードとソフトの連携が重要になる。

このような懇談会をはじめ、関係者間のコミュニケーション・情報共有が大切である。URとしても横浜のさらなる発展のためみなさんと協力していくつもりだ。

○小林委員（横浜国立大学名誉教授 ガイドライン検討会 会長）

エリアマネジメント活動の機会が増えてきてありがたい。開発後の有効活用がマネジメントであり、重要だと考えている。

本来開発においては民間事業者に対して横浜市が資金（税金）をつぎ込む、という関係となるが、横浜駅であれば税金を投資するという考え方もできる旨をエキサイトよこはま22発足当初に、横浜市会の特別委員会で説明したことがある。

インバウンドについて、外国人が夜に楽しめる空間が少ない。駅周辺の整備、さらに横浜駅からみなとみらい 21 地区で夜を活用する空間を整備していく必要があると考えている。

○岸井委員（日本大学特任教授 基盤整備検討会 会長）

オリンピック・パラリンピックに向けての開発、公共空間の整備については、横浜より東京、例えば東京駅、渋谷駅、新宿駅、羽田空港等の方がはるかに激しく動いている。その中で、横浜はどういう役割を担っていくべきかが課題である。

横浜の都心はコンパクトに魅力的なものが詰まっている。みなとみらい線沿線や連節バスが運行するエリアが一体のものとして認識されることが期待されている。その魅力を生かしてみんなで動き、みんなで支えていくことが重要である。これからICTが進んでいく中で先頭をきって横浜が新しいものにチャレンジしていく精神を持たないと東京の各地区に置いて行かれてしまうだろう。

○野原委員（横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 准教授）

この1年間で開催された5回のアーバンデザイン部会でも大きな議題として多かったのが公共空間に関することであった。公共空間の利用が地域の活性化にどうつながるかという議論が全国的に行われている。

横浜、特に都心臨海部は東京に劣らないくらい公共空間として魅力的な街だと思うが、情報発信が足りないため、オール横浜で協力していけると良い。官民連携しより良い公共的な空間を作っていくことをエキサイトよこはま22が担っている。

エリアマネジメント、広場の実証実験等、現場からだからこそ見えてくることもあると思う。今までは大きなプランニングをしてそれに基づき進めていくことを正しい順序としていたが、最近では社会的状況の変化から、先にトライアルとして社会実験等の小さな取組を行い、それを大きな計画に生かしていくという動きも重要になってきている。

エキサイトよこはま22の強みは、年1回懇談会で議論しながら見直し、修正を重ねることにより、計画がアップデートされ、中身が濃くなっていくことである。引き続き見直しをかけながらより良い部分を取り入れてほしい。また、今ある課題は何かを考え、未来を見据えながら、常に議論し、より良い計画にしてほしい。

5. その他

■ 総括

○小池委員（横浜市 都市整備局長）

日ごろからまちづくりにご協力いただき感謝する。

横浜駅は、川の上に成り立ったまちである。駅前広場や民間ビルの中心に駅があり、多くの鉄道路線が集まっている中で、事業を進めるというのは非常に困難である。現在、駅前広場の整備を進めているところだが、多くの方が利用する横浜駅で事業を進めることの難しさを改めて感じている。みなさまにご協力いただきながら進めていきたいと思う。

都心部の開発は、横浜駅、みなとみらい、関内・関外が一体となって初めて横浜の地ができると考えられてきた。みなとみらいの開発が4月末で進捗率約88%まできている中、周辺地区との連携をはかりつつ、計画を進めていきたい。

エキサイトの折り返し10年でもあることから、当初の大改造計画に立ち返りつつ、今後さまざまな事業を進めていきたい。

6. 閉会